

一般の部

決して、人間が起こした戦争なんかに「止めろ！」と言わないAI
ちっぽけな俺にも、戦争を止めることはできない
だが、誰ひとり泣かせないために、私は大きな声で「平和」を口にする

誰かが笑っているとき
どこかで別れの「哀しみの歌」を歌っている人がいる
今こそ手を指しのべられる人になれ

平然と過ぎていく1日
いつも当たり前前に食べているパン
戦死した人はたった1切のパンを食べていたのだろうか

二度と悲惨な戦争が、この地球上で起こらないことを願う
だが平和という時間は瞬く間に過ぎてゆく
私たちに出来ることは、現実を直視し、未来に向かって生きてゆくことなの
だ

親から渡された
「いのち」というバトン。
今日も懸命に走り続ける。未来に向かって。

ゼロ時間目のある高校生活
眠くて辛い日もあるが諦めることはしない
誰かの、社会の役に立てる自分になりたいから

高校生活の半分が終わろうとしている。
あっという間に感じるのは、
クラスのみんなのおかげ。

戦争の話聞くたびに、私はいつも思うことがある。
戦争をして何が残るのか。何を得るのか。
考えてみても私には分からない。

戦いの悲しみを消し
平和を求めて
心に希望の火を灯そう

家族の顔が暗いと私の心も落ち込んでしまう。
家族の顔が明るいと私の心も澆刺とする。
幸福は私の笑顔に宿る。そして、みんなを明るくする。

海外の戦争のニュースが流れる
物心ついて初めてリアルタイムで戦争を感じた
戦争で人が死ぬということを許してはならない

友達とけんか
世界のけんかは死者がでる
早く仲直りしようよ

なぜ人は争いをするのだろうか。
智恵と勇気を出し合い、みんなで話し合えばいいではないか。
それが未来へと続く人間の姿なのだ。

「人を攻撃してもいいのはゲームだけだ」
ある日、親に言われている子どもを見た。
日本人は、いま幸せな世界で生きている。

子どものケンカは仲直りで終わり、
大人の言い争いはそのうち終わる。
だが、国同士の戦争は支配するまで終わらない。
そして、悲しみを積みあげる。

戦争の悲惨を学び
平和ないまに生きられるのは
伝えゆく命があったから

インドアな姉とアウトドアな妹
性格は正反対だが血は繋がっている
そんな姉妹と今日も過ごす

「頑張れ」と言っているような
犬の鳴き声を聞く
今日も頑張る

自分より他人を思いやる心を持てば
争いは起こらない
そんな心の持ち主を私は目指したい

音楽は国境を超え、世界を1つにする
争いをやめ、みんなが音楽を楽しむ時間を持てば
「平和」が未来へと続く

空の青さ、鳥の歌声
子供たちの無邪気な笑顔
平和の光が輝く

今朝、早春の北アルプスに虹がかかった
人々は足を止め、目に焼きつけている
辛い時は、若しい時は、この虹を思い出し、未来に向かって歩みだすはず

戦争の起きない毎日
平和なことはいいこと
でも、平和だからこそ戦争について何も知らないことはいいことなのか

窓を開ければ小鳥のさえずり
朝日を浴びて芝生の上で伸びをする猫
心地よい朝が今日も始まっていく。

街で重い荷物を持って歩くお婆さんを見つけた。
「手伝うよ。」と駆け寄る高校生。
「ありがとう。」から始まる世界がここにある

今日は妹の運動会。
誰もが、楽しそうに競い合っている。
この平和な日常がずっと続けばいい。

食べて、寝て、少し遊ぶ。
のびのび生きる私のうさぎ。
争いをやめれば、もっと人の世界も良くなるはずだ。

戦場へ向かった祖父の話
何度聞いても私には、イメージもできない世界だった
平和な日本で過ごせることに感謝し前を向いて生きていく

今の日本は、戦争がなく日々平和に過ごせている。
世界では、戦争によって苦しんでいる人がたくさんいる。
そのことから目を逸さず、私は生きていきたい。

互いに認め合うこと、
理解し合い、尊重し合うこと。
そこで初めて平和が実現する。

「平和」の風が吹き抜ける
未来を織り成す
人々の笑顔。

世界中の人々が、
平和に生きることが保障されないこの社会は
いつになったら平和を実現することができるのだろうか

「戦争をして何になるの？」
人の命が奪われ、生まれ育った故郷が壊され
残るのは悲しむ多くの人達だけだ。

平和のために、過去の過ちを忘れない。
意見の対立があったときには武器を持たずに話し合おう。
いのちを守ることが私達の役目なのだ。

間違いを間違いだと言えること。
戦争で得られる利益より、生きていくことが一番。
持つべきは武力ではなく、人間の優しさなのだ。

まだ会ったことない人たちと
共に歩いていく道
給水所はもうすぐだ

美味しいご飯を食べている。ぐっすり寝むれている。
幸せに過ごせていることが、平和の証。
戦争なんて、誰も知らない未来を築こう。

今やっている「戦争」は
人々を大量虐殺する行為である
今すぐに止めないといけない

戦争のなか必死に生きる
生きたくても生きられない人がいる
今ある命を大切にすべきだ

平和な世界には
たくさんの美しい花が咲く
それが愛と思いやりなのだ

朝起きてご飯を食べて、学校で勉強をする。
この生活がどれだけ「幸せ」、平和に慣れてしまった私たちも気が付かなく
てはいけない。
だから、今こそ「平和」について学ばなくてはならない。

夏の青い空にアメリカの爆撃機が現われ
広島と長崎で、たくさんの人たちが犠牲になった。
私たちは語り継ぎ、平和を築く責任を背負っている。

笑顔溢れる家庭に
愛と理解が満ちている
平和な日々が静かにつづく

友情が深まり
知識と技術が根づく国に
平和が芽生えてゆく

戦争のない毎日が、平和の始まり
「鳴らそう平和の鐘を」「届けよう千羽鶴を」
世界の人へ

同じ時間に家を出て
同じ時間に家に帰る。
これは全て「平和」がくれた贈りもの。

好きな勉強をする。
好きなことを追求する。
これは、「平和」だからできることなのだ。

戦争の影遠くなり平和へ
愛と心芽生え平和の花
共に歩み、自由がある、喜びがある

間違いを「違う」と言えるその勇気
どんな時にも 捨てずに、生きてゆきたい

戦争をすぐに止めよう
幸せは、平和があって築かれる
だからぼくらは守りたい

家族と共に
笑顔溢れる日々
幸せな平和

「平和とは何か」は難しい問題だが、
毎日が当たり前で生きられること。
そこから、「平和」は始まる。

朝起きて、机にある弁当を見て思う。お母さん、ありがとう
「大丈夫。」この言葉に何度も助けられてきた。
世界の人と力を合わせ、「平和」を築いていきたい。

もう、二年半にも及ぶ戦いの日々
子どもたちの無残な血の海がテレビに映る
ウクライナの平和を願う

おとぎ話だと思っていた戦争が、
画面越しに近づいてくる。
「大統領、戦争をすぐ止めてください。」

「戦争」を知らない私の思い出は楽しいものばかり、
戦争があった時代の人々の思い出って、どんなものなのだろう？
きっと、「今」を嬉しく思っているはずだ。

諦めない自分に負けない
歯をくいしばる
「大丈夫だ。」毎日が平和なのだから

平和を願い
毎日喜びを探し、
新しい世界を作りだしてゆく

世界の争いは
意外と身近で起きている
私は今日もテレビで知る

何気ない日々
世界のどこかでは苦通な日々
どれも当たり前だとは考えない

雲一つないはてしない空
平和が当たり前ではないことを心に刻み
明日も明後日も続くことを願って生きる

戦後七十九年
世界唯一の被爆国の国民として
人類の平和を願う

愛する家族が、笑顔で生きられるよう祈る。
「戦争」を知らない私は、多くの偏見のなかで生きている。
だから、平和を担う人間になりたい。

戦火が収まることを夢見て、十六年。
平和の花が咲くことを願い、命の大切さを知った。
自分が今生きてる奇跡。当たり前だと思わず、感謝と共に生きてゆく

平和は「心」
戦争は「武器」
平和な世界に武器は必要ないはずだ

夏の全国甲子園大会。
挑戦者たちの厳しくて長い戦いが始まる。
「戦争」よりも熱い戦いに、いま俺は燃えている

祖父は、何も語らずに天国に旅立った。
満州に生まれ、引きあげの苦しさに耐えた。
日本史の教科書を見るたび、笑顔の祖父を思いだす。

ひい婆ちゃんが言っていた
「戦争はするものじゃない。」
その思いを重く受けとめた

朝起きて顔洗う
ご飯食べ学校行く
当たり前ではない幸せ感謝する

いまが平和と言われても、いましかしらなきゃ分からない。
だから僕らは、歴史を学び未来に伝えていけば、
平和の意義が高まるかもしれない。

鏡に映る物が反転するように、立場が違えば見え方も変わる。
誰かの正義も、誰かの悪で、激しく対立することもある。
相手の視点に立てば、見えてた景色も変わるかもしれない。

戦争とは、「正義」の押しつけ合いだ。
一人一人にはいろんな理想とするものがある。
今も、どこかで自国の正義をかざし、「戦争」を始める。

敗戦後の町には、
びっくりするほど音が消え、
びっくりするほど何も無かった。

私たちは百人百花の世界に生きる。
時には、意見が合わず対立することもあるが、
話し合いで解決できる不思議な力を人は持っている。

ガラス越しに見た恐しい争い記憶。
あの日、あの場所で生きていたあなたが願っていた平和な時代。
私はあなたの分まで、幸せに生き争いのない世の中を作っていきたい。

フォルダーを見返すと友達の笑顔が詰っている。
一つ一つには「青春」という今がある。
五十年後、この笑顔と共に笑いあいたい。

核を手にして
得られるプライドより、
核がない「平和」を、国民は待ち望んでいる。

毎日の平和な日常を送れることが幸せ
一瞬で日常を壊してしまうのが戦争
「世界のいま」は私たち人間の考えと行動にかかっている

「おはよう」って家族と朝の第一声、
戦争が起きれば二度と友達と会えない。
毎日「おはよう」って言えることは当たり前のことではない。

争いがあたりまえになったこの世界
争いのない平和な世界になる願い
幸せな日常噛みしめて生きる

国が始めた戦争によって
命を犠牲にしても
決して平和は訪れない

全世界の平和を願い
大きな空の中を
鳩がどこまでもどこまでも飛び回る

青を飛ぶ大きな翼
みんなの夢を運ぶのが旅客機
いのちみんなの生命を奪うのが爆撃機

決して、私は忘れない。
五年前の修学旅行で見た
広島原爆の記憶全てを失ってしまった広島街。

戦争を経験した人が語る貴重な話
それを忘れず
一步一步前に進んでゆく

思いやりを大切に
命を大事にしていけば
戦争は起きない

北朝鮮がミサイルを打ち上げた
日本から離れた海の中に落ちた
私はJアラートが鳴るたび胸が苦しくなる

強い相手に負けた
けどこの毎日の生活が
平和という日常なのだ

今も、どこかの国で戦争が起きている。
世界の6人に1人が、1日200円の暮らし。
貧困と飢えと紛争に苦しんでいる人がいる。見放す訳にはいかない。

戦争がなくなり
世界中の人たちの笑顔が増える
次は平和を咲かせる番だ

なにげない会話で盛り上がる
笑顔の輪を 今日も広げよう

喧嘩なし。 紛争なし。 心配事なし。
今日も平和な一日をありがとう。

いま生きていることに、
毎日を過ごせていることに、
平和に、感謝したい。

自分の好きなことができる
やってみたいことができる
平和とは笑顔になれるということ

世界の平和を願い
全人類が手を繋ぎ
未来を望む

戦争で人を殺したら英雄になる。
でも、一つの尊い命には、親が、妻が子どもたちがいる。
誰もが、大切な今日を生きている。

お母さんがくれた命
一日一日を大切に
私もこれから未来へ繋いでいく。

第二次世界大戦を知る祖母
体験談を聞いた記憶を
心に刻みつつける

戦争を始めるのも、終わらせるのも人間で、
犠牲となるのも人間なのに、
いったい、戦争の意味はあるのだろうか。

子どもたちが泣いている
戦争という恐怖の中で泣いている
そんな声を聞くとしない大人たち

道に沢山の迷子たち
飢餓や差別で泣いている
そんな小さな手を大きくなるまで育てたい

青く美しい海、緑広がる山々
日本が戦争をしていた間は、赤色に爛れていたそう
今見る景色は、美しく輝やいている

ひい爺ちゃんの戦争の話
想像するだけで心が痛む
平和な今を「ありがとう。」

明日は絶対にあるとは限らない。
今でも戦争をしている国がある。
今日この一日を大切に一生懸命生きたい。

戦争は減っているけど終わっていない。
身近なところでも武器をつくっている人がいる。
戦争が終わる日はいつくるんだろうかと考える。

食べること、寝ること話すこと今は当たり前でも昔は違う
青い空暑い夏に浮かぶ飛行機
平和とは何か、今の私たちにできることは何か消えない過去から学び未来へ語り継ぐ。

何気ない日常が一番の幸せ。
この幸せを毎日毎日続けられるように。
仲間と一緒に平和な世界を育てていきたい。

壊れた建物にも人が住んでいる。
食べものもない子どもたちは、どうやって生きているのだろうか。
愚かな戦争が生むのは憎しみだけだ。

産まれても、
産まれてこなかった方がいいと思う。
悲しい戦争という時代。

気持ちの良い朝の目覚め、
それが当たり前なのか。
「忘れてはいけない」過去の犠牲と、努力してきた人たちを。

ただの会話だが
笑顔が絶えない仲間たち
なんて、平和な時間だなと思う

平和は1人じゃ作れない
平和はみんなで作るもの
明日に向かって！未来に向かって

平和は1人じゃ築けない
あの日の記憶を思いだして
みんなで命を守ろう

毎日のように目にする死のニュース
平和になるのはいつなのだろう
スマホのニュースを見ながら考える

毎朝元気に学校に向かう子どもたち
隣に友達がいて咲いてるたくさんの笑顔
この平和な毎日が未来でもずっと続いていますように

何事も笑顔が大切
下を向かずに上を見て
いつも笑顔でいよう。

戦争は人の命と人間の心を容赦なく殺していく
一度始まったら全てが壊れてゆく
だから戦争を許してはならない。

毎日私たちはお腹いっぱい食事することができる。
これは決してあたり前ではない。
豊かさと平和に感謝して「いただきます」

襲ってくる敵兵にも戦うための正義がある。
敵味方は生まれた国の違いだけ。
言葉は違うけれど、理解し合えば一緒に肩を組めるはずだ。

戦争中人を多く殺せば英雄
でも一人一人に大切な人たちがいる
たとえ敵同士でも、理解し合えるこいは絶対できるはずだ

子供の笑顔はいつもキラキラ
その笑顔に光があること
それこそが平和の証

毎日幸せに生きてくても生きられなかった
あの戦争の時代のことを
これからも忘れずに引き継ぎたい。

好きなことに、夢中になれるこの時間を楽しみたい
戦争中は相手を殺すことだけを考えた
いま、誰もが自由に生きていくことができるのだ

戦争地域の人々が誕生日を向かえても
人々は素直に喜べないだろう。
国民にとって一番欲しいプレゼントは「平和で安心できる暮らし」なのだ。

今の私たちは幸せに暮らせている。
それは、昔、日本を守るために犠牲になってくれた人がいるからだ
その人達のためにも、もう二度と同じことを繰り返さない

いつまで、ウクライナとロシアは戦争をしているのだ。
そろそろ気付いてくれ。
だがとっくに気がついてはいるはずだ。
無意味な戦争による莫大な損失を。尊い命の犠牲を。

戦場は赤く染まる空の色。
平和な僕らの国は満天の青空。
全ての空に虹がかかる日はいつ来るのか。

毎日のように流れる戦争のニュース
自分達にできることは何か
必死に考えて今日も生きていく

戦場は、血と汗が流れてゆく怖い場所
爆音と悲鳴だけが冪している
私たちは平和と豊かさを軽んじてはいけない

夜空に輝く
いくつもの星が愛を語っている
平和な空をいつまでも見上げる

ヒタヒタと迫りくる戦の足音
新たな戦前
明日はわが身か

逃げまどう子らに明日はない
ガザを ” 一分でもいいから考えて”

青春時代 米は配給 厳しい食糧難 我慢節約の日々だった
時は移り 腹一杯食べられる豊かな食事
自由で和やかな社会を行く老後の92歳

平和は日頃の暮らしの明るい家庭から
健全な心 助け合う力が育つ
つまずいた石も踏み台に乗り越える

中国で桜の植樹を続ける市民団体
春には毎年桜を誇り花見客の顔をほころばせる
友好に平和の風が吹く

愚であり業なのか
戦さ無き世は単なる夢幻か
二つの戦さ止む気配なく

今甦える遺書 牧攻上原 自由の理念抱きしまま逝けり
きけわだつみのこえ

戦後の「不戦の誓い」忘れず折れず
とにもかくにも 国宝松本城の濠に映る姿
平和が永久に

人にやさしく、人にも自然にも
感謝の気持ちと表現を
たとえ何回裏切られても。

平和は必ずやってくる。
文化と芸術の灯が消えない限り。
宇宙は我々を見ているからわくわくをもっと増やしたい。

安寧のための隷属か
それとも自由のための闘争か
それが問題だ

壁の向こうで、母を探して泣き叫ぶ、幼き子たちの声が聞こえます
壁の向こうで、正義の名の下に、弾倉を運ぶ兵士達の息づかいが聞こえます

『平和』とは万国共通の言葉ではないことを知りました

平和とは
見えないけれど
1番大切なもの

平和とは 遠くの外国の人の命も また近くの人命も
同じように大切に尊重しあえること

平和とは、奪い合わない、憎しみあわないこと。
違いを越えて、違いを認めあう。
ともに手を携えて、命を大切に、地球の未来を考えていくこと。

手をつなごう、君の温かさを感じるよ。
温もりは君を笑顔にしてくれる。
平和って、それだけで十分に伝わるよ。

君の想い、私の気持ち、
思いやる気持ちがきっとみんなの笑顔につながるよ。

乗鞍の尾根のような落ち着きは、深呼吸に似ている。
気持ちが整い、他人に優しくしたくなる。
きっとそんな気持ちが優しきなんだろうね。

戦争が無く自然に息が吸えること、食べること、水が飲めること、
ありがとうの対話で和むこと

2度あることは3度ある 本当にそうかな？
大切なのは繰り返さない事 大切なのは忘れない事

家が焼けて無くなった 沢山の思い出と共に
けれど父は戦火の中生きていてくれた
命を受け継いだ私たちは 平和を考え続ける使命がある

どうして人はすぐ争い合うのだろう
花だって色も形も咲く時季もみんな違う
私達もみんな違う 違いを認め合い大きな心で生きていこうよ

静かな今夜も
親子いっしょに
絵本を読める幸せ

サイレンや爆撃の音もなく
親子で絵本を読める幸せ
絵本を読んだら ギュッとハグ
そして「おやすみなさい！」

今日も山は美しい
川は水音をたてて流れ、誰に遠慮することなく深く息をする
そして、私は心に1つ感謝の石を積む

前に行く幼子が「おかあさん」と呼ぶ声はちょっと高く、甘く、桜色
幸せで穏やかな響きだ
どうぞこども達の母を呼ぶ声が、悲しみと恐怖にみちた叫びとなりません
ように

今夜は何にするかなー
毎日、面倒くさい
でもちょっと不満を持てるのが平和なんだろうな

おかあしゃん、あのね…
小さな手をつなでいた日々は「陽だまり」という名の小さな平和
そして今、少し大きくなった手を握り、祈り続ける あなたの未来

世界中の人たちが
みんな平和に暮らせることって
なんでこんなにむずかしいのだろう

大きな平和を夢見るけれど
小さな平和は
身近にあるのかもしれない

今の幸せな生活があるのは
平和な世界を
願ってくれていた人がいたから

緑の映える初夏の庭
青空に行く飛行機を
笑顔で見上げる朝の幸せ

人もペットもいついなくなるかわからない
玄関を開けて見える いつもの日常

支えてくれる人がいる
だから私の今はある
その人が今でも横にいる

もし喧嘩しても
最後には微笑み会おう
それが理解し合う印

学徒動員から帰還せし伯父
結納日の白米に手を合わせ
涙浮かべる

願ってみては立ちどまり
願ってみては歩み始める
それが私の小さな平和への祈り

去年は稲だったのが今年は麦になった
来年は稲なのだろうか
あ、また未来のことを考えていた

平和とは 昨日まで手を繋いでいた子供が
1人でシャボン玉を吹けるようになるようなことだ

ホロコーストの不条理を、他民族へのジェノサイドではらそうとするの？
棘だらけのアンネのバラに、問うてみる

保育園、小学校、お仕事
みんなばらばら行ってきます
夜ごはん みんなそろっていただきます

環境と教育が人を育てる
優しい心が平和を生む
私達にはそれができる

本当の幸せって何？
お金や物ではないことに気づけた時
戦争はなくなる

自分を見つめ愛してください
あなたの周りの人も愛してください
みんなの笑顔が平和への1歩

今、対岸の火事として、テレビで流れる映像として、戦争を観る。
記憶にはないけれど、遺伝子に刻まれた過去。
私達のDNAが、もう、涙を流さないように。

「僕もツミキで遊びたい！」 「ダメ！オレが今遊んでる！」
「この大きな塔、かっこいいね。」 「まあね。時間かかったんだあ」
「僕も一緒に作っていい？」 「2人でもっとでっかいの、作ろう！」

子が笑う
抱きしめる時間
夢一生分

手を伸ばす
届く距離に
温かさ

喉が渇いた
水が飲める
最高だ！！

私が笑う 子どもも笑う
家庭が明るくなっていく
心の平和 家族の平和

空がきれい 花が美しい ご飯がおいしい
そんな気持ち忘れない

特別な日だけが幸せじゃない
何気ない日々が幸せ
そんな毎日の積み重ね

にらめっこ 負けても 笑顔

守りたい人がいる 守りたいものがある
ただそれだけのこと たくさんを欲しがらない

画面で見る戦争の惨さを
毎日見ても縮まらない距離
私にできる事は考える事をやめない事

生まれたばかりの子を見つめ、
子の未来を想像して親の目も輝く。
世界共通、平和の原点。

来週あれを食べようよ、
来月あそこに旅しよう、
当たり前に来る明日を楽しみに、誰もが眠りにつけますように。

君の未来に戦の影すら落とさせない
笑顔と希望、夢が奪われることなく生きられる世界を。
父は誓う。君の寝顔を見ながら。

テレビの中の戦争を、まるで自分事のように悲しむことのできる優しい君
だからこそ
いつか生まれる君の子供には同じ思いをさせたくない
そう願いつつ、私は平和を訴え続ける

「see u soon!」オンラインゲームで一緒に散歩した貴方と
「じゃあまたね」一緒に過ごした静かな時間は
次の日の貴方の国と遠い国の争いを告げるニュースに切り裂かれ、声は二
度と届きませんでした

燦然と 笑う貴女を見て想う
正義貫くその顔が歪まない世界が来ることを

鋼鉄の死神は我々の真に大切にすべき人々を四角い石に変えました
黒い雨は我々が愛すべき人をこんがり焼きました
我々は使命を全うできているのでしょうか

画面越しに、夫の爆死を嘆く妻の言葉に胸打たれる。
「神様、この悲しみを乗り越える術を教えてください」
彼女は叫んでいた。彼女の声か神様に聞かれ、この様な祈りがもう捧げ
られなくてもよい日が来る事を祈らずにはいられない。

日常って言葉を考えてみた
普通の事ができるってなんて幸せな事なんだろう
全ての人が日常を送れる幸せを願い 日々をしっかりと生きよう

早く起きなさいと言わなくていい
洗濯も朝ご飯の準備もゆっくりで良い
だって今日は日曜日

当たり前のように過ごしている日々
朝が来ること、食事ができること、出かけられること、仕事があること、
お風呂に入れること、眠る場所があること
どれも平和だからこそ成り立っているもの

かかと落としで目覚める朝
もー！と言っちゃうけれど
しっかり熟睡できた証拠だね

世界中のこころを
つないで
平和の輪

地球はひとつ
願いもひとつ
平和への思い

地球家族が
みんなで渡る
虹の橋

祖父は104歳で永眠した。
祖父の弟は20歳で戦死した。
奪われた84年の歳月の尊さを想う。

曾祖父とひ孫の年齢差は102歳。
直接会話をするのは難しいから、孫の私に出来ること、しなくてはいけないこと。
それは、戦争に行った祖父の話を子供たちに伝えること。

戦争を経験した祖父が目の前にいる。
でも戦争の話を聞く勇気が出なかった。
楽しそうな祖父の笑顔が消えてしまうから。

SNSたまには平和について検索し
これから自分にできること
考えることが平和の一步

助け合いの土、優しさの水、笑顔の太陽
咲かせよう 皆の心に平和の花を

戦争を語る祖父の凜然たる姿
我が子供にも語り継ぐ
忘れない、忘れさせない戦争の悲惨さを

南島の土の下で
白骨のがらんとした頭蓋は
今なお故郷の夢を見る

遠い場所から聞こえる
冷たい足音は
いつしかあなたの門を叩く

夏草も夢も失せて残るのは
瓦礫と化した
平和とさせまじ

青い空に松本城が映える この空に戦闘機はいらない
柔らかな手の平に握ってほしいのは人を殺すための武器じゃなく
希望に溢れた未来だけ

戦争を知らない母から産まれた私は戦争を知らない
戦争を知らない私も戦争を教えることはできる
どうか子供達が戦争を知る日がこないことを切に願っている

部活迎えに行く私 待つ息子
世界中の親子が平和

巫女の娘いる神社
世界平和と大学合格 寒空の下祈る

もう一度あなたといられるのなら
もっともっともっともっともっともっともっと
愛すお父さん

ねえ、どうすればいい と聞ける日々の退屈さ

寒さには暖かさを 暑さには過ごしやすさを
お腹が空けば美味しいものを それがあれば平和だよ

また明日ね 昨日は楽しかったね
そう言えるのが 平和な毎日

今日の夕ごはん 献立悩む
毎日続く これって平和な気持ちだね

平和とは 願うだけのものでなく
みんなの力で作るもの

私の息子が特攻隊員と同じ歳になった。
我が子を戦地へ送り出した親の気持ちを思うと涙が出る。
この先ずっと平和でありますように。